

高校生が学童保育を救う

「高校生が学童保育を救う」 カテゴリー：生活

高校一年 臼井森乃助

記事出展「サマー学童に補助金、こども家庭庁、夏休みの受け皿拡大」(日本経済新聞 2024年7月13日)

私は「サマー学童に補助金」という記事を取りあげました。私は、それを実現するため「高校生が夏の学童保育でボランティアをする仕組み」を提案します。

この記事は、2025年度からこども家庭庁が夏休みだけ開設される放課後児童クラブ(学童保育)に補助金を導入するという内容です。その背景として、学童保育に入れない待機児童の数が過去最多となった現状があります。2023年度から待機児童の調査が春と秋の年2回に変更され、秋には待機児童が大幅に減少することわかりました。このことより、夏休みの学童保育の需要が極めて高いと判断し、サマー学童をより強化しようとしています。しかし、この政策を実現するにはスタップの確保が必要不可欠であり、この点が課題となります。

私は小学生の頃に学童保育に通っていました。高年齢のスタップが多く、制約が多いため、あまり楽しくありませんでした。しかし、高年齢のスタップが多く、制約が多いため、あまり楽しくありませんでした。

20x20

高校生が学童保育を救う

かし、今年高校生となった私は夏休みの学童
 保育にボランティアに入り、印象が大きく変
 わりました。自分と年齢が近い子供達かすこ
 く懐いてくれて、小学生は高校生がいること
 ぶとぶと楽しい場になったよかったです。スタ
 フの方からも「すごく助かった！来年も来て
 ね！」と言われ、自分が役に立つ貴重な経
 験となりました。そして日本全国同様下ある
 と想像した私は、こども家庭庁の政策を実現
 するために、「高校生ボランティア」が学童保
 育に行く仕組みが下まると人手不足の解消
 になる！と考えました。
 しかし、実現には壁もあります。まず高校
 生は、小学生と接するスキルを持ち合せて
 いきます。さらに、学童保育における安全対
 策や基本的な技術なども必要となつてきます。
 しかしながら夏休みのスタッフは多忙で、高
 校生の指導に費やす時間はなさそうです。そ
 こで私は、夏ま下の間に高校生が専門団体か
 ら研修を受けてあげれば良いと考えました。小

20x20

高校生が学童保育を救う

学生の放課後専門のNPO法人に問い合わせたところ、数日の研修を受けること下全然違うと言われ、自分の提案に前向きな返事をもらえました。来年実行するつもりです。研修を受けた上下、夏休み前に数回学童保育を訪れ、環境慣れすること下さらに力になれるはずです。将来的に、ホラント、アズニ証としてクなどの制度を導入し、研修を終えた高校生達が学童保育に行き、子供達の充実に夏休みに貢献したいと願っています。

20x20